

# Jネットと故郷上越

豊橋市 古川泰男（寺町三丁目出身）

十八歳で故郷を出てから東京、神奈川で約三十六年あまりを過ごし、六年前に豊橋に住むようになりました。豊橋市と上越市は本州の背と腹といった位置関係にあります。

当地には知る人もなく寂しい思いでしたが、同じ技術者として懇意にしていた高田高校同期の尾原勝利君が長く名古屋にいて、いろいろ引き回してくれました。やはり名古屋で働いていた、柔道部で共に汗を流した武田茂夫君、小柄ながら韋駄天の池田勝明君の同期生四人で名古屋の夜を楽しみました。同期生間のメールにその時の写真を添付して、四人組の元気をアピールしたものです。

尾原君からJネット会長の太田さんを紹介され、年一回のJネット東海地区サロンに続けて出席するようになりました。東京からも副会長の松川さんをはじめ関係

者が足を運んで下さり、毎年盛況な会となっています。

今年は九月四日にJ R名古屋駅隣接のマリオットホテルで開催されました。毎回のように思いもしない出会いがあります。小学生の頃、雪道を酔の量り売りのお使いに行かれた近所の酒屋の娘さんとの出会いもその一つです。近くにいながら知ることもなかった人と遠くの地で知り合うことの不思議さが雪国の生活を鮮やかに甦らせてくれました。お豆腐を入れた鍋や醤油瓶を風呂敷に包んで、寒さにかじかむ指を結び目にかけて吹雪の中で家路を急いだのは、まだ小学校の低学年の頃でした。辛いというより懐かしい思い出となっています。

東京で懇意にしていた友人の叔母さんとの語らいは、私もずいぶんお世話になったお医者さん一族の発展の物語でも

ありました。故郷を遠く離れた地で激動の時代を生き抜かれた満足感に輝く先輩たちの笑顔を拝見することは大きな励みでした。

時空を超えて故郷を語り合つひと時は、もはや夢の中のような幼い日々の謎が五十年の歳月を隔てて解き明かされる不思議な感動の時です。このような機会を与えてくれるJネットと故郷上越のありがたさをしみじみ感じています。

